
そして人はいなくなっちゃいました

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そして人はいなくなっちゃいました

【Nコード】

N3089R

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

普通の間管理職の男。彼は仕事を終え、家路につく。しかし、そこには予想もしない出来事が……。

勝手にリレー小説始めてみました。

元のタイトルは『普遍的であつた筈なのに……』です。

（前書き）

この物語は、中途半端な所で終わっています。

いつもと同じように、くだらない仕事を終え家へと向かう。
仕事は、家計のためにやっている。

やる気のない上司の機嫌をとり、能力のない部下の指導をしながら、自分の仕事をこなす。

「あゝ、今日も一日終わったあ！」

と、両手を天に伸ばしながら歩く。

通勤は徒歩で行っている。健康のため。体重のため。そして何より、この突き出た腹を引っこめるため。

この腹は、仕事が……いや、会社が悪い。

月に二度は必ず社員会を開く。社員会とは社員会議の略称だと皆、口を揃えて言うが、その実態は社員飲み会だ。参加は強制。料金は割り勘。逃げようとする

「お前は仕事を何だと思っている！ チームワークあってこそその仕事じゃないのか！ 逃げるという事は、仕事を辞めるという事と判断していいのだな！」

と、きたものだ。

しかし、今日は社員会はない。私は定時に、そそくさと仕事を終えると家路についた。

いつもと同じ通い慣れた道。見慣れた街並み。その中を、特に寄り道もせずに家へと向かう。

しかし、おかしい。普段であれば、人の賑わう繁華街も、店の中から声を掛けてくる店員もいない。

店が閉まっている訳でもないのに、人の姿が全くない。

「今日は何かあるのか？」

ふと呟いたが、足を止める事なく家へと向かう。

本当に誰もいない。買い物中の井戸端会議の主婦達も、駄菓子屋

に群がる子供達も、犬の散歩がてら自分も散歩しているおじいさんも、耳にイヤホンを付けランニングしている若者も、消えてしまったかのように姿が見えなかった。

家の側まで来ると、少しホッとした。

家に帰れば、家族が温かく迎えてくれる。人に会える。そう考えると、足は勝手に速くなっていた。

家に着き玄関を開け

「ただいま！ 帰ったよ！」

と元気に言くと、そのままリビングに向かった。

「……！」

しかし、そこで見たものに私は言葉を失った。

（後書き）

リレー小説：複数の著者による合作執筆の事です。

この物語の続きを執筆してくださる著者様をお願いします。

続きがどうなるのか、読みたいので、聖魔光闇までご一報ください。
（ここだけ、毎回あとがきに入れてください）

何通りものストーリーが、出来ても良いと思います。

誰の物語を引き継いだのかを明記して、物語を繋いでいきながら、
完結したら、すごいな。と思います。（どんな話になるのかと、ドキドキします）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3089r/>

そして人はいなくなっちゃいました

2011年10月8日01時12分発行